

Mamiya

Vol.
11
2006

SPRING/SUMMER

Gallery

Photo/田村 彰英



第12回 MCCフォトコンテスト 入賞作品



総評

このコンテストも今回で12回を迎えました。傾向として最近ではマミヤ7Ⅱによる応募の中に優秀な作品がたくさん見られるようになりました。一眼レフとは違う距離計を内蔵した、いわばレトロなファインダーに、皆さんが慣れてきた証拠だと思います。

レンジファインダーのカメラでは、被写体を自分の眼で直接見る習慣が自然と身につくようになります。それはレンジファインダーカメラの持つひとつのメリットといっても良いでしょう。

カメラには型式によってそれぞれメリットもデメリットもありますが、一眼レフカメラの良いところ、レンジファインダーカメラの良いところ、それぞれの特徴をよく理解し、カメラに慣れていくことが、良い作品を撮る大切な条件なのです。

日本写真家協会会員 原 弘男

金賞

『雨の中のあいさつ』 行川 征子(埼玉)

大胆なカメラアングルと超広角レンズのデフォルメ効果でブナの樹の生命力が力強く表現されています。造形的にも面白く、画面の隅々にまで細かい気配りが見られます。

645AFD AF35mmF3.5 f22 1/6秒 +2補正 FORTIA SP





MamiyaGallery



銀賞
『夜明けの里』 宮田 享(神奈川県)

松代(峠)の風景は当コンテストでもお馴染みですが、この作品は霧の具合がほど良く、構図にも安定感があり、美しい棚田の景色を素直に表現している点に好感を持ちました。
RZ67プロII Z100-200mmF5.2W f22 1/15秒 EPT



銀賞
『チカラシバ群生』 中田 友一(栃木)

子供のころ、近くの原っぱで見た懐かしい情景を思い出させてくれます。朝露なのか雨上がりがわかりませんが、濡れた穂先のしっとりとした色合いと質感の描写が素晴らしいです。
RZ67プロ Z180mmF4.5W-N f22 1秒 RVP100



銅賞 『秋と冬』 松井 謙吾(神奈川)

去年の紅葉は今ひとつでしたが、思いがけない雪化粧はまさに逆転ホームラン！
木によって雪の積もり方に違いがあり、これが画面に適度なリズムをつけています。
フレーミングにも慎重な気配りが感じられます。

645AFD AF105-210mmF4.5 f11 1/4 秒 RVP PL



銅賞 『白い妖精』 井川 クキ子(東京)

ユキノシタの特長のある花びらが、題名のとおりまるで妖精が舞っているように見えます。もう少しアップにするとこの感じがさらに増してくるでしょう。絞りを開けたのは成功でした。

645AFD AF105-210mmF4.5 f4.5 1/45 秒 RVP100



銅賞 『八幡平秋景』 小野 望(神奈川)

光線状態がよいのでダケカンバの黄葉がキラキラと光りたいへん美しい作品です。このようなスケールが大きく密度の高い風景の場合には、特に中判カメラの描写力の強さを感じます。

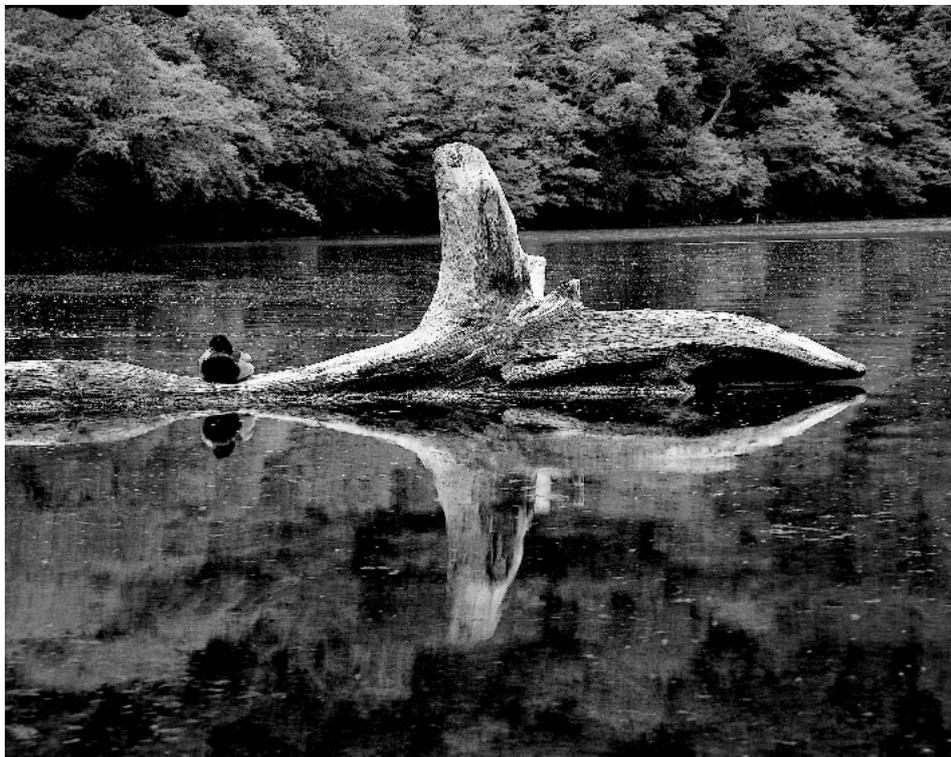
マミヤ7 N80mmF4L f22 1/60 秒 E100VS PL



入選 『落葉の行方』 鈴木 弘己(静岡)

部分的に見ると面白い物や綺麗な物が沢山つまっている写真ですが、色々入れすぎてイメージが分散しています。例えば、左上の部分だけで構成してみるなどといった大胆な発想を今後は期待します。

RZ67プロII Z180mmF4.5W-N f22 3秒 RVP100



入選 『昼寝』 飯塚 光男(東京)

鴨も良いポイントになっていますが、倒木がシャチが潜水艦のように見えるのが面白いですね。鴨にもう少し動きがついていた方が面白かったのではと思います。

RZ67プロII Z100-200mmF5.2W f45 1/4秒 RVP100



入選 『明けゆく洞沢』 小田 薫(東京) 穂高の朝焼けをタイミング良く捉えたスケールの大きな作品です。かつて山岳写真は4×5の独壇場でしたが、今やマミヤ7がそのお株をすっかり奪った感じがします。今後も迫力のある山岳写真を撮り続けて下さい。
マミヤ7Ⅱ N80mmF4L f16 オート RVP100 SL



入選 『木洩日』 高崎 信夫(愛知) 岩の色に特徴があって苔の緑との対比が綺麗です。右と上を少しカットしてみることで、このイメージがさらに強調されると思います。もう一絞り絞った方がシャープ感がでるでしょう。
645プロTL A200mmF2.8APO f16 オート -0.7EV補正 RVP



入選

『湖上に咲く』 山田 宏(大阪)

花火の多重露光は一眼レフでは計算が難しいのですが、うまく配置し画面いっぱいに大輪が広がり、華やかで見ごたえがあります。水面に一つ花火が入っていますがこれはご愛嬌でしょうか。

645AFD AF55-110mmF4.5 f13 B RVP100 多重露光



入選

『棚田の彩』 生頼 弘(奈良)

彼岸花をアップにし、なおかつ棚田全体の雰囲気を見せているのがこの作品の魅力です。超広角レンズでは前景に近寄って撮ることがコツですが、上手く使いこなしています。

645AFD AF35mmF3.5 f22 1秒 +0.3EV補正 RVP100



入選

『夕照の曾爾高原』 加藤 雅夫(大阪)

こうした風景を見ていると何かとてもホットとした気持ちになります。構図がたいへん良くまとまっていて、ハーフNDの使い方も上手く、技術の高さを感じます。

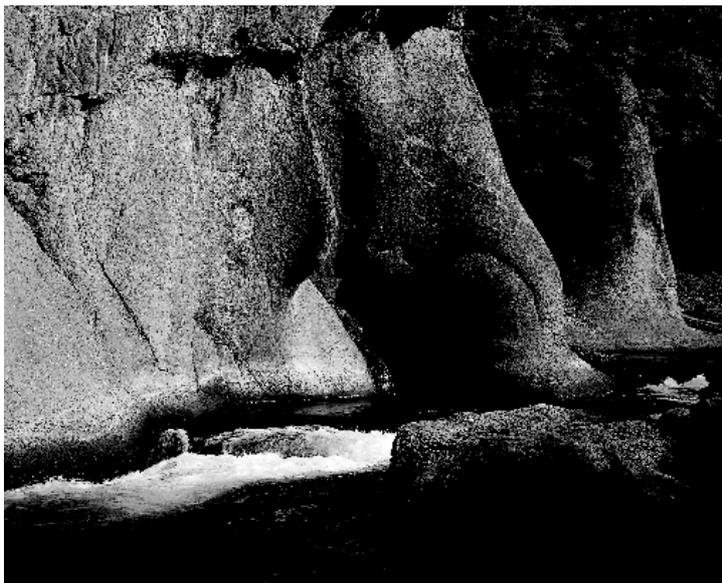
645プロTL C55-110mmF4.5N f32オート -0.7EV補正 RVP100

入選

『創世の流れ』 佐藤 進(東京)

吹割の滝独特の岩の造形を的確なフレーミングで象徴的にとらえています。フォルムが面白だけに流れにもっと激しさがあつたら、岩の静と水の動の対比でドラマチックになったのではないのでしょうか。

645プロTL C55-110mmF4.5N f16 オート -0.7EV補正
RVP100 PL



入選

『ネコのヒゲ』 佐川 俊夫(東京)

多重露光とタンゲステンフィルムの使用は、花の表現に相応しく効果的でした。ただ、右下が白く飛んでいる点と、絞って撮っているので背景のボケがきつみえるのが気になります。

645プロTL C80mmマクロF4N f22 1/60秒 RTP II



入選

『有明の鹿島槍ヶ岳』 荒川 信利(埼玉)

夜明け前の静謐なひと時が伝わってくる作品です。稜線と月が離れ空の量が多いので、雲のあしらい方を工夫して画面の密度を高めると良かったと思います。上と右とをカットするもひとつの手です。

マミヤ7II N150mmF4.5L f11 オート -0.7EV補正 E100VS

mcc Photo Contest **13**

写真の醍醐味、多彩な個性の競演…

それがMCCフォトコンテスト。

第13回の応募期間は4月1日(土)～5月31日(水)です。

写真テーマは自由です。ふるってご応募下さい。

「秋の鎌池雨飾山麓撮影会」コンテスト 入賞作品

総評

今回の「秋の鎌池・雨飾山麓撮影会」では、紅葉の具合とともに天候もあまり好ましくない状況でございましたが少しでもいい写真を撮ろうという皆様の気迫にあふれた撮影会となりました。そのため、審査をさせていただきました私にも、その気迫が伝わり、楽しませていただきました次第です。

撮影地の雨飾山麓や鎌池周辺は、年ごと季節ごとに違う表情を見せてくれます。機会がありましたらそれぞれの季節に訪れてみてはいかがでしょうか。きっと新しい発見や自然の雄大さ、美しさに出会えることでしょう。皆様本当にお疲れ様でした。

撮影指導・作品選 林 明輝



金賞 『涙の軌跡』 行川 征子(埼玉)

ブナの幹をつたう滴の流れを、独自のカメラアイでとらえた着眼点が素晴らしいです。望遠レンズを使用しつつ、準接写撮影を試みたことで、新しい写真表現を開拓されたといっても過言ではありません。

645AFD AF APO300mmF4.5IF f4.5 1/30秒 fortia

銀賞 『秀麗』 古谷 栄次(東京)

季節が移りゆく秋の鎌池の象徴的な作品です。ナナカマドのしっとりとした質感や、ブナの紅葉が生き生きと表現されています。広い風景ではないのですが、水面の映りこみも美しく、ブナの原生林の雰囲気 が十分に伝わる作品に仕上がっています。

645AFD AF105-210mmF4.5 f13 1/3秒 RVP100 PL



銅賞 『閉ざされる前に』 早川一三夫(愛知)

厳しい撮影条件のなかで、手前に紅葉を配しながら背景をシルエットにしたことがよい結果となりました。このような写真でシルエットを作るのは難しい技術ですが、的確な露出で表現できたと思います。

マミヤ7Ⅱ N80mmF4L f22 1/30秒 RVP100



銅賞 『水草模様』 太田 秀男(長野)

ブナの落葉と水草とが美しく絡み合っているさまは、まるで現代日本画を眺めているようです。露出は的確ですが、もう少し絞り込んだほうが、現場の空気感が表現できたのではないのでしょうか。

RB67プロS KL65mmF4L f16 4秒 fortia PL



JTB賞 『秋水に遊ぶ』 磯崎 和夫(埼玉)

水面に舞い落ちた葉の動きが、見事に表現されています。作者の意図が明確で、きれいにまとまっています。下の画面を1/5ほどカットされたほうが、更にまとまりが出ると思いました。

RZ67プロ Z250mmF4.5W f22 オート E100VS



入賞 『雨上がり』 飯塚 光男(東京)

6×7cm判カメラではピント合わせが難しい被写体でしたが、下方の葉にピントを的確に合わせられたことで良い結果になりました。背景の緑と手前のヤマブドウの赤い葉が、互いを引き立て合っていて素晴らしい作品といえます。

RZ67プロII Z100-200mmF5.2W f11 1/2秒 fortia



入賞 『ブナ林紅彩』 生頼 弘(奈良)

作品の中に様々な色が散りばめられています。緑や黄色、オレンジ、茶色。自然が織り成す配色美が目を楽ませしてくれる作品です。ピントもパンフォーカスでしっかり合わせられていますし、右上に空を入れたことで、狭い画面ながらも奥行き感を表現できたと思います。

645AFD AF55-110mmF4.5 f22 1/2秒 +0.3EV補正 RVP PL



入賞 『滝雲流る雨飾山』 宮台 祥夫(神奈川)

天気の悪い日は、山やその稜線が隠れてしまいがちですが、懸命に撮影に望んだ甲斐があって、稜線や滝雲をクリアに捉えることができました。青空ならなお良かったのですが、厳しい冬に向かう秋の、ほんのひとコマとして貴重な作品といえます。

645AF AF105-210mmF4.5 f22 オート +0.3EV補正 RVP



入賞

『晩秋の鎌池』 八坂 博孝(神奈川)

水面の落ち葉が瑞々しく、しっとりとした秋の風情を感じさせます。通常なら上部やブナ自体に目がいきがちですが、水面にブナを映しこませたことで、独自の世界を表現しています。作者の素晴らしい感性に拍手です。

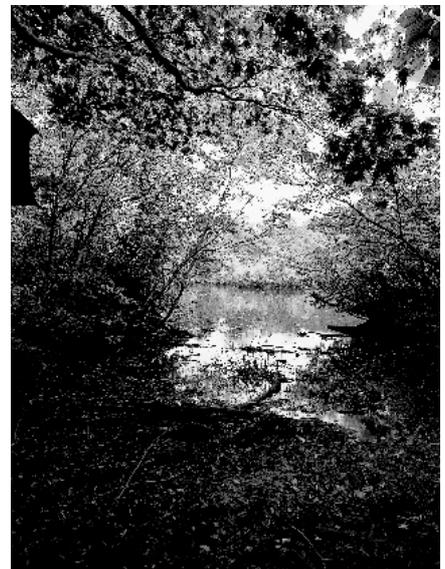
RB67プロSD KL127mmF3.5 f22 1/4秒 E100VS

入賞

『秋霖の池』 井川クキ子(東京)

秋の静かな冷たさと、水辺の空気感を見事に表現できた作品ですね。タングステンフィルムの使用は勇気がいりますが、この場合は功を奏しました。

645AFD AF35mmF3.5 f22 2秒 EPT



スローカメラの休日

田村 彰英

Tamura Akihide

東京、地下鉄千代田線沿線にある谷根千とは、台東区と文京区にまたがる下町と呼ばれる心む谷中、根津、千駄木の略称である。私にとってはお気に入りのフォトジェニックな3時間ほどで探索できる楽しい下町である。

この町が気に入り最近まで10年ほど住んでいた。休日の時間のある時にマミヤ7を携え、撮影したのが今回の作品、いわゆるお散歩写真であるからほとんどは重い三脚など待たずに手持ちで撮影している。

マミヤ7に内蔵されたメーターはプロ写真家としても信頼できる正確さであり、私が待っているのは満足出来る描写の80mmf4、65mmf4、43mmf4.5、今回は、全て65mmを使い撮影した。このマミヤ7が大活躍したイタリア、ヴェネチアの取材は楽しい思い出である。相棒のマミヤRZ2台のフルセットも私の信頼できる仕事カメラである。



プロフィール

1947年東京都生まれ。ライカ使い、レンズグルメとしてカメラファンにはおなじみの写真家。田村氏の作品はニューヨーク近代美術館をはじめとする多くの美術館に永久保存されている。黒澤明監督のスチールカメラマンとしても活躍。大学、写真専門学校の講師として約30年間歴任。

アサヒカメラ、日本カメラのフォトコンテスト審査員歴任。おもな関係著書として、『ライカ解体新書』(成美堂出版)、『ワインテージカメラ・セレクション』(ステレオサウンド)、『ライカレンズ完全ブック』(グリーンア出版社)、『スローカメラの休日』(権出版社)などがある。



木造住宅 古い木造住宅を解体修復しリニューアルされた大正モダンを感じさせられる住宅。TVコマーシャル等ロケにつかわれているが、撮影で迷惑をかけない様注意。

マミヤ7 N65mmF4L f5.6 1/2 E100S 三脚使用

表紙 根津教会

映画「氷壁」のロケに使われたと言われる教会、白いペンキ塗りで保存状態がよく良い雰囲気を保っている。

マミヤ7 N65mmF4L f8 1/125 E100S



旧吉田酒店 下町資料館として台東区が保存している。撮影は自由。手持ち 1/15 秒で撮影。
マミヤ7 N65mmF4L f5.6 1/15 E100S



谷中ガーデニング 春の谷中は軒下の花々が満開となり各家庭の自慢の花壇が咲き誇り見事だ。
マミヤ7 N65mmF4L f5.6 1/60 E100S



中版カメラ マミヤZD 2130万画素

フォトテクニック・ノート

マミヤが初めて手掛けたデジタルカメラが2130万画素を誇るビッグマシン。発表からずいぶん待たされたがやっと発売になった。今回は実写経験をもとに中判デジタルカメラについて触れてみたい。

35ミリ判銀塩カメラがデジタルカメラに変りはじめ、世の中にかなり浸透してきた中、マミヤにも2000万画素クラスの世界初中型一体形のカメラが登場した。デジタルは画素数だけで語れないと思うが、一つの目安がある広告業界などでは350dpiにするのが印刷の決め手になっている。

ZDの印刷サイズは29×38センチとB4サイズを超えることになりほとんどの印刷物がカバーできることになる。画素数の多さはトリミングなどにも有効で、今後も増え続けるのだろうが、ここが一つの目安になる。

4×5カメラに匹敵する画像が手持ちで撮影出来てしまうことがすごい。いままで4×5で撮影していた海外リース写真や建築写真、人物写真等にも新しい写真の可能性がある。

基本的なカメラの操作性、基本性能は645AFDに準じているので、すでに実績がある右手操作部分シャッター周りなど違和感も少ない。レンズも645AFDの流用で倍率は1.16倍で80mmレンズが93mmになる。少し長くなるがほぼ6×4.5cm判と同じと考えて良く6×4.5cm判のレンズイメージで問題は無い。

大きく違うのはカメラの形体で6×4.5cm判一眼レフカメラはほとんど奥行きのある形体にペンタプリズムを載せたスタイルだった。これはフィルムの形状にとらわれていた為で6×4.5判cmカメラはフィルムが縦送りになる為、どうしてもこの形状になっていたがフィルムの制約が無くなり35ミリカメラの形状になったことでカメラを構えた時の安定感や携行性が大きく変わった。

重量、サイズとも35ミリサイズプロ仕様デジタルカメラとほぼ同じで1300グラム、高画質で大伸びを前提にするのならば低感度のRAWデータで撮るのが望ましい。





講師 山崎 正路

このクラスのカメらは本来三脚を使用して使うカメラで、じっくり被写体に向かい合って撮影するカメラなのだと思うが、スナップ等もこなしてしまえるので手持ち撮影も試してみた。
〈作例A〉

高層ビルからの、ガラス越しで手持ち撮影。

カメラに安定感があり手持ちでも高画質の写真が撮れる。

35mm 1/80秒 F12 AWB
IRカットフィルター ISO100



〈作例A〉



800万画素デジタルカメラ



Mamiya ZD <作例B>

800万画素クラスカメラとの違い同じ部分を拡大 (P15の見開き写真 左下の部分)

デジタル部分の操作系も35ミリデジタルカメラと基本的な違いはすくない。画像素子は48×36mmで35ミリフルサイズの丁度2倍のCCDで秒1.2コマ10コマ連写も可能。多少バッファの読み込み速度など待たされることもある。

APSCサイズと比べてレンズの深度も浅く、ブレにも注意が必要だが、撮影し始めると申判であると言うことを忘れかける。それ

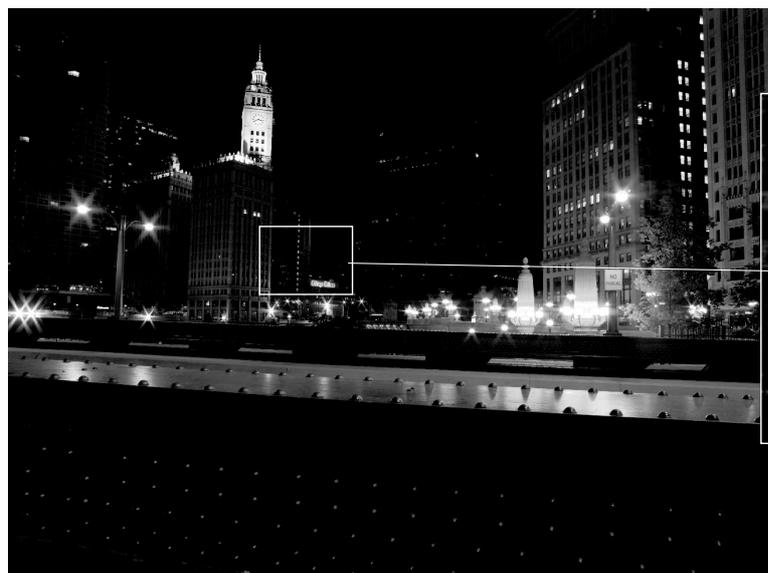
ほど気楽にシャッターが押せる。

RAW/JPEGの同時録画が可能で記録媒体はCF/SDのダブルスロットル。2ギガのカードでISO100で50カット近く撮れる。最近SDカードも安くなってきたので大容量のカードも手に入れやすくなってきたが、ロケ等ではパソコンやストレージに移しながら撮影している。

今後デジタルのZDバックも出てくるだ

ろうがRZの様にウエストレベルファインダーやアイレベルファインダーを交換しながら使う場合は三脚も前提だろうしレポリングバックも有効だと思う。

645AFDで手持ち撮影を考えている方には操作性携帯性の良いZDの選択も考えてほしい、重量も軽く持ちやすいカメラに仕上がっている。



RAWデータの夜景ではシャドーノイズもなめらかな調子を得られる。部分を100%に拡大
35mm 8秒 F16 AWB IRカットフィルター ISO50

ローパスフィルター YC301

偽色やモアレを低減させる光学ローパスフィルターは別売で有無の選択が可能、付属の IR カットフィルターで撮影した画像は確かに細かな部分にモアレが出ることも

あったが、ローパスフィルター付きのカメラで撮影した結果、モアレが気になるカットは一枚もなかった。

ローパスフィルターは被写体により不必

要な場合もあるのと思うが、モアレはパソコンのモニターで確認する必要があるので装着して置いた方が安心だ。



建築撮影をマミヤZDで撮影

デジタルカメラの解像度が上がると細部までの表現が可能で4×5カメラで撮影していた建築写真もデジタル撮影が可能になります。画像処理ソフトを使いアオリ修正と不要物を修正。

45mm 1/250秒 F8 +0.3EV AWB 光学ローパスフィルター-A ISO50

昨年メジャーリーグチャンピオンになった
ホワイトソックス井口資仁選手

井口選手は何年も色々なカメラで撮影しているがZDは人物写真でも細かな部分まで解像する。大型CCDの深度は浅くピントは厳密さをしられるが、ピタリ決まればすばらしくシャープな写真が出来あがる。大型のデジタルは機動力と精密描写を持ち合わせている。

210mm 1/60 F4 +0.7EV AWB
光学ローパスフィルター-A ISO50



山岳写真のススメ ①

マミヤカメラ・レンズの多段活用法

川口 邦雄



「マチャプチャレ乱雲」6993m ヒマラヤ 645AFD 210mm

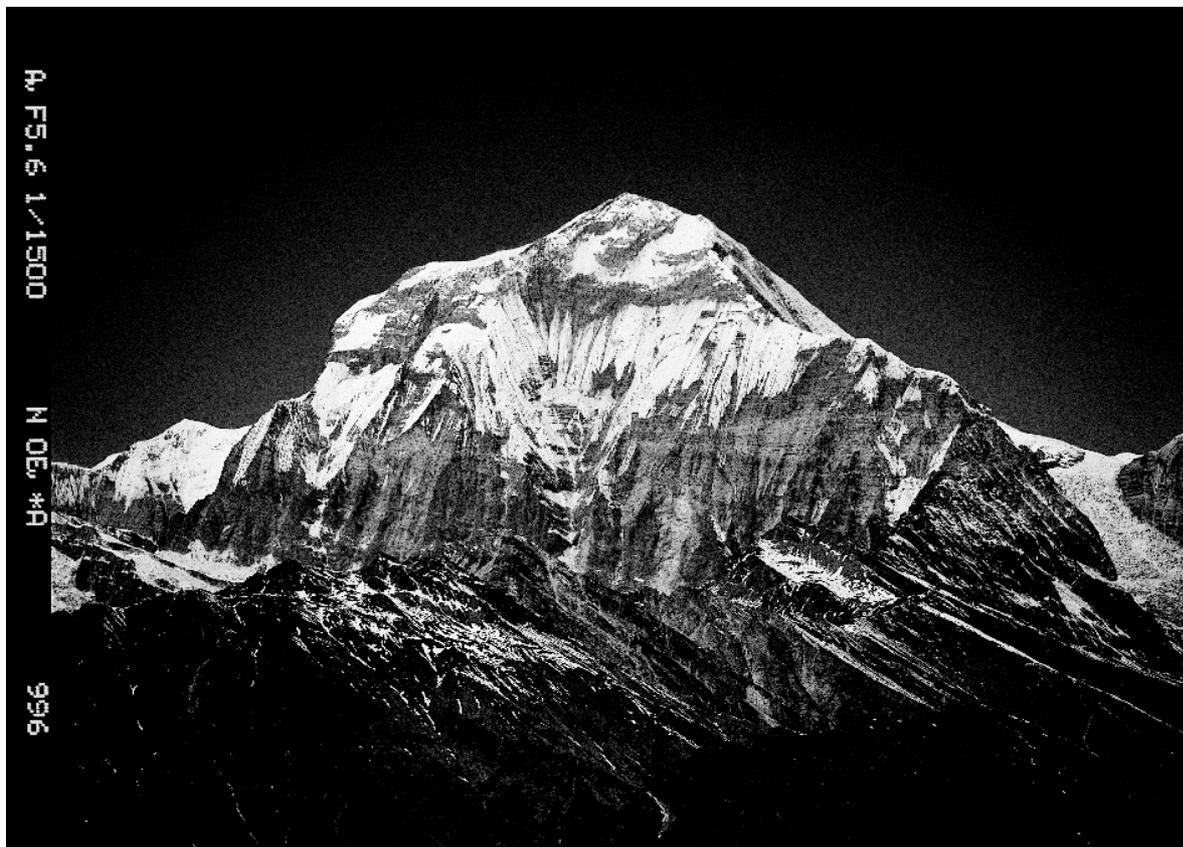
高速シャッターを有効に使う

山岳写真や風景写真を、どんな撮り方でしていますか？と聞くと大方の人は、「そうですね、絞りは深めに、だからシャッターはおそめ、だから三脚を使ってがっちり」といいます。まあそんなだから中判は35^{mm}に比べてオイソレと撮れない、というのがホンネのようです。

しかし！これは大変なカン違い。「でも中大判のレンズは深く絞ったほうがピントの質がよくなるというけど…。」いいえそんなことは半世紀以上も前の話。いまどきそんなオソマツなレンズを作ったら誰も買い手がいません。今や時代は高速コンピュータ、材質は新素材、新工法で、そんな心配はもう迷信になりました。ところでたとえばマミヤ645AFDⅡには1/4000秒というシャッターがついています。これは現在出回っている同系のカメラのうち最高速ですがこれは決してサービスのためについているのではない。このカメラの高性能を強力にバックアップするためについているのです。

作例はAVモード(絞り優先)でAEに適應するようにカメラに適切なシャッター速度を選択してもらったものです。この場合高速シャッター速度なのでもちろん手持ちでカメラブレはなし。当然小形カメラなみの機動性の撮影です。従来、このようなデータはカメラ記録ができなかったので、作者によってはデータ捏造。(?) いうなればデータラメで科学的根拠はなかったのですが、これはハッキリ記録されているので科学的信頼がありますね。

このように高速シャッターの活用でカメラの機動性を高めるには、そのレンズの被写界深度を対象なりによく考えること。フィルムを増感処理すれば(たとえばこの場合ISO100を2倍の感度、ISO200にするため2倍増感している)絞りもシャッター速度も守備範囲が1EV広まるので、こんなことを応用してください。



「ダウラギリ」8167m ヒマラヤ(空撮) 645AFD 210mm

コダックフィルムの実力 秋田 淳之助

写真表現は、やさしそうで本当は、とてもむづかしい表現世界だと思います。むづかしく考えれば考える程、わからなくなってくる。それでも一枚でも多く自分にとって気に入った写真が撮れることを願ってシャッターを切っているのです。理屈ではなかなか写真は思い通りに写ってくれません。ならば、そんなにむづかしく考えないで気楽にシャッターを切ったらいいではないか。そうです、その気楽に切ることはとても大切な気がします。

「いい写真」を撮りたいと言う話を良く聞きます。いい写真ってどういう写真でしょうか。私は「いい写真」とは、見た人が、感動することだと思います。当り前のことですが、これ以上の言葉は見当りません。自身が感動することも必要ですが、他人に感動を与えることはとても大事で、そういう写真を撮りたいと日夜、努力をしているのです。その為、撮る人が、エネルギーを使うことです。そのエネルギーが間違いなく、一枚の映像に乗り移ると信じています。時には空振りもありますが……カメラを初め、フィルム等関連技術の進歩により、写真表現も身近なモノとなりました。

オート化された機能をフル活用すれば、する程、楽に写真が撮れてしまう。この撮れてしまうことが、写真表現の大きな落とし穴になっているのではないか。今迄大変だったメカの技術取得はなくなった分、頭を使う作業にエネルギーを費して作品づくりをしたいものです。

「撮る時代から創る時代へ」と言われて久しいが、創る時代になって写真アート表現に変化の兆が見られる。メカはカメラ本体にまかせる。頭で映像イメージを確立する。こんな写真表現時代が来たのではないのでしょうか。

「出会いを大事に、感動を映像にする」この一瞬を切り撮ることにエネルギーを使いたい。今回の作品は色再現性の素晴らしいE100VSで撮影し私が意図する表現が出来たと思います。



フィルム：コダック E100-VS カメラ：マミヤ7/セコール N43mmF4.5L

コダック フォトクラブ準会員 入会キャンペーン

昨年発足しました、コダックフォトクラブ準会員に入会しませんか？

コダックフォトクラブ準会員は、マミヤカメラクラブの会員の方ならどなたでも入会できます。

5月31日(水)までに入会していただきますと、コダックのリバーサルフィルム E100VS120 5本を差し上げます。この機会に是非ご入会下さい!!

■コダックフォトクラブ準会員

入会資格：MCC会員

期間：1年間

会費：2,100円(入会金不要)

特典：会報「コダックフォトカプセル」のお届け(年4回)
フィルムパッケージ・キャンペーン(フォトカプセル誌上で実施)
撮影会やフォトセミナーへのご優待

●応募先・問合せ先

〒104-0061 東京都中央区銀座 6-4-1

東海堂銀座ビル 3F コダックフォトサロン内

コダックフォトクラブ事務局「KPC 準会員入会キャンペーン」係
TEL03-3572-4415 e-mail: jp-photoclub@kodak.com



コダック リバーサルフィルム 120/220パッケージ キャンペーン

マミヤカメラクラブの会員ならばどなたでもご応募いただけます。

ご好評いただきました120/220パッケージ・キャンペーンを再度実施いたします。下記対象フィルムの指定部分を集めて、MCC事務局へお送り下さい。合計10点につき120一本と交換、合計100点につき220(5本入)一箱と交換いたします。

詳細につきましては同封のチラシをご覧ください。マミヤカメラクラブ事務局までお問合せ下さい。

■応募受付期間：

2006年4月1日(土)～5月31日(水)

MCC 事務局到着分まで有効

●応募先・問合せ先

〒338-8501 埼玉県さいたま市西堀 10-13-1

マミヤカメラクラブ事務局

TEL: 048-858-4826 FAX: 048-858-4843

新製品紹介

Mamiya ZD

48mm×36mmの大型 CCD を搭載した、有効画素数 2130万画素の超高画素・高画質中判デジタルカメラ。

6×4.5 cm判に迫るサイズの CCD を搭載しながら、ボディサイズは161.5mm(幅)×152mm(高さ)×90.8mm(奥行)、重量 1300g と、軽量コンパクト。

連写性能も1.2コマ/秒・10コマ連写と、これまでの6×4.5 cm判カメラと比較しても遜色のないパフォーマンスを発揮することができます。レンズは645AFレンズがそのまま使用できます。

中判カメラのマミヤが、今ここに改めて定義する『中判デジタル』Mamiya ZD は、フォトグラファーの皆様に、新たな可能性を提供いたします。



オープン価格

MCC ORIGINAL GEAR

ハンドメイド、オリジナル商品の為、受注生産。納期は1ヶ月程かかります。(下記の商品につきましては、クラブポイント交換対象外とさせていただきます)

マミヤ645専用チェストカメラケース

●ザックのショルダーに掛けて首にかかる荷重を軽減。ウェストバック型のマミヤ 645 専用カメラケース。ザックのショルダー部からジョイントテープで取り付けるので首や腰への負担が少なく、移動中でも速写に対応できます。



- ・マミヤ 645 がそのまま収まる(55-110 mmレンズ付まで)
- ・カメラの出し入れが容易で速写に対応
- ・ウェストバック、ショルダーバックにもなる。
- ・信頼のラムダ社製

寸法 / 高 18×幅 25×厚 13 cm
表材 / 強力ナイロン製
重量 / 430 g
カラー / ネイビー、オリーブ、ブラック
会員特別価格 15,225円(税抜価格 14,500円)

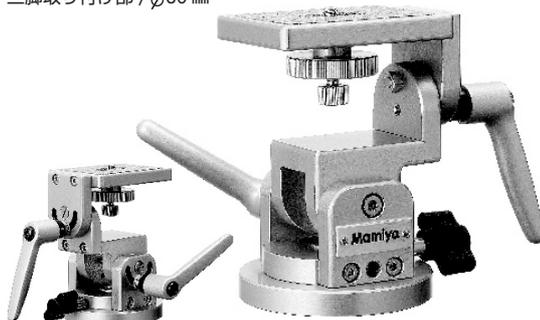
実物はマミヤのロゴが入ります
※ご注文はクラブ事務局までお電話か FAX にてお申し込みください。

MCC 3D雲台 ●なめらかな操作の小型 3WAY 雲台。

中判カメラから大判カメラまで対応できる頑丈な小型雲台です。可動部の摺り合わせ面の平面性を極限まで高めており、適度な滑らかさとトルクが得られます。

- ・大型カメラの重量に耐える頑丈さ
- ・スムーズな操作性 ・レバー式でかさばらない
- ・ブレーキレバーのストップ位置はワンタッチ変更可能

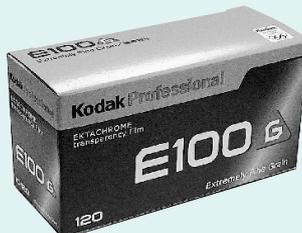
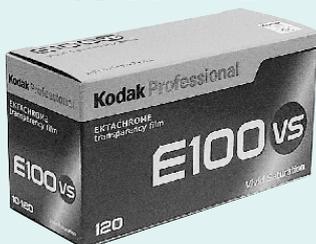
素材 / アルミ削りだし	会員特別価格
高さ / 120 mm	94,500円(税抜価格 90,000円)
重さ / 800 g	オプション:
カメラ取り付け部 / 60×80 mm	ネームプレート名入れ 3,000円
三脚取り付け部 / φ80 mm	



※ご注文はクラブ事務局までお電話か FAX にてお申し込みください。

コダックフィルム特別販売

エクタクローム E100VS
120サイズ 10P×1(10本入り)
5,000円(税込)



エクタクローム E100G
120サイズ 10P×1(10本入り)
5,000円(税込)

『二輪草咲く、新緑の上高地撮影会』2005年10月14日(金)～15日(日)

マミヤカメラクラブでは2度目になる、小谷村、雨飾山麓の撮影会。10月14日～15日の2日間で開催した。

今年は紅葉の進みが遅く、鎌池周辺はまだ最盛期には少し時期が早いようだった。それどころか撮影に向かう途中の白馬では、まだセミの声も聞こえていたほど。不安にはなったが、そこそこ色づいてはいるので撮影できない程ではなくホッとする。

ホッとしたのも束の間、ここ雨飾山は3年前に行なった残雪と新緑の撮影会でもそうであったが、その名の通り雨が多い。この雨がブナの原生林を育てるので文句は言えないが、せめて撮影の時くらいは止んでいて欲しい。初日は午後1時に現地到着、早速鎌池周辺を撮影するが、晴天だった午前中とは打って変わって曇り空、時々陽は指すものの徐々に雨模様。しかし、何とか予定時間までは撮影ができ、無事宿に到着。

宿泊の栃の樹亭は食事がとても美味しい。温泉も

良く、明日の撮影への鋭気は充分。

しかし充分な鋭気とはうらはらに、翌日起きてみると外はどしゃ降りになっていた。早朝の撮影は断念して待機するが、雨は徐々に小降りに。朝食前に少しはシャッターが切りたいと思い一瞬の雨の間を縫って湯峠に向けて出発。峠から山道を登り林先生オススメのポイントで撮影する。ブナの樹相がすばらしく苦労はしたものの、なかなか良い写真が撮影できた。

朝食後は雨で地盤がゆるんだため、当初の予定地は危険と判断し、再度鎌池にて撮影する。昨日とはまったく逆で、雨を覚悟して出かけたがいつの間にか晴れ間も覗き、雨でしっとりとした紅葉やいきいきとした樹木の様子を撮影。最後に雨飾キャンプ場でお昼を食べて帰途に着いた。いつもながら雨飾山周辺の自然は懐が深く、何かしらの発見や光る表情を見せてくれる。撮影する方も天候に負けないう、あきらめず良い写真を撮りたいものだ。



マミヤ協賛撮影会&セミナー

マミヤカメラクラブ員に限らず、どなたでも参加できます。

八千穂高原・白駒池撮影会

主催：白駒荘 / ロッジ・エル・ケーナ
 日時：2006年6月10日(土)～11日(日) 一泊二日
 講師：秦達夫先生
 参加費：30,000円・新宿発 / 25,000円・現地集合
 問合せ：ロッジ・エル・ケーナ TEL 0267-88-4567
 白駒荘 TEL 090-1549-0605(小屋直通)
 備考：マミヤカメラの貸出しあり 新宿より貸切バス

第6回 花畑日尚先生と尾瀬を歩く撮影会

主催：原の小屋
 日時：2006年9月16日(土)～18日(月) 二泊三日
 講師：花畑日尚先生
 参加費：30,000円
 宿泊：原の小屋
 問合せ/申込：0241-75-2038(原の小屋連絡所)
 090-8921-8314(現地衛星電話)
 備考：マミヤカメラの貸出しあり 現地集合

マミヤカメラクラブ撮影会予定

2006年撮影会 裏磐梯撮影会

日程：2006年5月19日(金)～20日(土)
 場所：福島県裏磐梯
 指導：川口邦雄先生
 宿泊：ダイワロイヤルホテル裏磐梯
 定員：30名

2006年夏季撮影会 新緑の大山・宍道湖撮影会

日程：2006年7月13日(木)～15日(土)
 場所：大山、宍道湖周辺
 指導：石橋睦美先生
 定員：30名

「フォトクラブ&ファミリー会員ブローニーフォトコンテスト」開催決定!

コダックフォトクラブ、ハッセルブラッドクラブ、ペンタックスファミリー、マミヤカメラクラブ 4クラブ合同のフォトコンテストが開催されます。

応募期間は2006年4月1日～6月30日(必着) テーマは自由です。

入賞作品はコダックフォトサロンにて展示されます(9月予定)

※詳細につきましては同封のチラシをご覧ください。マミヤカメラクラブ事務局までお問合せ下さい。

マミヤカメラクラブ



写真を楽しむ・・・、
学ぶ・・・そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。

写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。

マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。

講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。

撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。

宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られるほか、愛機のクリニック(点検・清掃)も受けられます。会員の方には、ポイント券制度・修理割引・オリジナルグッズ特別斡旋などの特典があります。

入会金:1,050円(消費税込み)

会費:4,200円(消費税込み)2年会費

手続:入会のご案内(払込取扱票付き)を事務局にご請求下さい。

クラブ員特典

1.クラブ誌「マミヤギャラリー」の配布
クラブ員の皆さまの写真をより多く公表する場としてのクラブ機関誌「マミヤギャラリー」を年2回配布します。

2.ポイント券制度
製品購入時、雑誌掲載時、コンテスト入賞時、入会時、各種イベント参加時など各々にポイントが付きまします。このポイントを集めると素敵な商品と交換することができます。

3.修理代金の割引
ご愛用のマミヤ製品の点検・修理を依頼する場合には、通常の修理代金より割引いたします。

4.マミヤカメラクラブメール
クラブ主催のイベントや新製品情報など、写真に関する情報をいち早くお知らせいたします。

5.マミヤオリジナルグッズの特別斡旋販売
マミヤ特製オリジナルグッズをクラブ会員特別価格でご提供させていただきます。



入会のお申し込み、お問い合わせは
マミヤカメラクラブ・事務局

〒338-8501 埼玉県さいたま市桜区西掘10-13-1

TEL.048-858-4826



マミヤカメラ・サービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。

また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。

また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファクスでも承ります。

東京サービスセンター TEL 03-3375-3701 FAX 03-3375-3703 営業時間 10:00～18:00

大阪サービスセンター TEL 06-6541-5631 FAX 06-6541-5769 営業時間 9:00～17:00

土、日、祝日は休業

感動が宝もの Mamiya-OP マミヤ・オーピー株式会社

本社 〒338-8501 埼玉県さいたま市桜区西掘 10-13-1

商品・修理に関するお問い合わせは、サービスセンターへご相談下さい。

東京サービスセンター 〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-5-6西新宿IKビル TEL 03-3375-3701

FAX 03-3375-3703

大阪サービスセンター 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江1-10-11西谷ビル

TEL 06-6541-5631

FAX 06-6541-5769

インターネット《ホームページ》<http://www.mamiya-op.co.jp>

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区 株式会社タック

カメラサービスセンター :〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目

TEL011-221-8507 FAX 011-232-3344

東北地区 MCプロテック :〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44森ビル202

TEL022-297-3846 FAX 022-297-3867

東海地区 山田テクニカルサービス :〒496-0026 愛知県津島市唐臼大門99

TEL0567-32-2708 FAX0567-32-3454

九州地区 山口カメラサービス :〒816-0097 福岡市博多区半道橋1-13-20

TEL092-451-0655 FAX 092-451-0655

※マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしていません。